

理事長 森 勉

来年の5月1日には平成の御代が終わり、新しい時代が始まる。元号が変わる時には、先の御代の時代考証や次の御代への希望等、様々な思いが表明される。それと同時に、元号と西暦の併用は不便なので西暦に統一してはどうかという議論が起きる。

西暦はキリスト誕生年を紀元とし、それ以前を紀元前とする連続した長暦で西欧において9世紀以降一般に用いられるようになった。現在では広く国際的に用いられており、最も汎用性がある。中華民国では建国107年という建国からの紀元暦を用いている。わが国においても歴史的事実は定かではないが、神武天皇即位の紀元前660年を紀元とする西暦元年よりも更に古い2600年を超える皇紀がある。

一方、元号は大陸において前漢の武帝の治世紀元前115年頃に「建元」という元号が創始されてから、清王朝まで2000年以上用いられた各皇帝の短歴である。わが国においては、大陸の文化的・政治的影響を受けながらも、文武天皇5年（西暦701年）に

「大宝」と建元してから現在まで、独自の元号を継続して用いている。

国家は興亡を常とする。わが国のように少なくとも1300年以上国家と元号が継続しているのは奇跡である。また、暦と度（長さ）量（体積）衡（質量）即ち時間と空間を支配することは為政者にとつて重要な権力の行使であり権威の象徴である。余談になるが、1959年尺貫法等からメートル法専用に変わった時、ゴルフ場の距離表示はヤードからメートルに一举に変更されたが、いつのまにか元に戻っていた。自衛隊では斉一な部隊行動を維持するため、速足の歩幅は身長に拘わらず75cmと決まっている。背の高い英国人と雖もゴルフで距離を歩測するには1mは長すぎ、1ヤード（90cm）が丁度よいのかなとゴルフの強かな歴史と文化に敬服している。

わが国においては西暦と元号が併用されており、面倒なことは事実であるが、1300年以上継続している絶滅危惧種のようなわが国独自の元号には、それなりの歴史と伝統と文化があり元号の維持を切に願う次第である。戦後生まれの私には20世紀にさしたるノスタルジアは感じないが、昭和という言葉と時代には深い郷愁を感じる。